

本愛

発行
天理教本愛大教会

〒453-0821
名古屋市中村区大宮町 1-60
TEL (052) 461-4326
MAIL mail@hon-ai.org
〒632-0071
奈良県天理市田井庄町 19-1
TEL (0743) 62-0378
編集責任 広報部

教祖のもとへ――

挙つておぢばがえりを

うちわけ会おぢばがえり強調月間

高安大教会の流れを汲む各大教会が「うちわけ会」として、一手一つに団参を行う「うちわけ会おぢばがえり」。本年6月と11月を強調月間として、おぢばがえりの実施が呼びかけられている。

年祭活動仕上げの年に、うちわけ会に連なる私たちも、一人でも多くの人をお連れして、おぢばへ帰らせていただきたい。

今月は、うちわけ会おぢばがえり強調月間。うちわけ会につながる14力所の大教会では、おぢばがえりの呼びかけが行われている。このおぢばがえりは、「信仰の喜び、おたすけの喜び

を、教祖のもとへ」を合言葉に行われる。うちわけ会として一手一つに協力することを通して、各教会が定めた活動目標や、それぞれの心定めの達成を目指す。強調月間中はおぢばが

年間活動目標

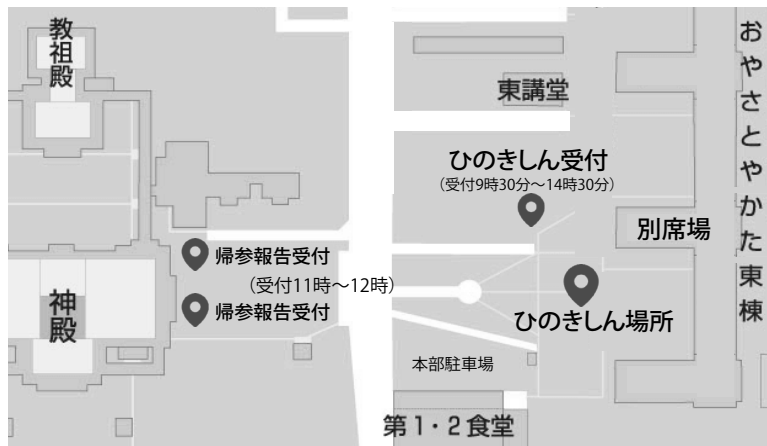
今日を陽気に。
つながる、
つなげる。

えりの強調日が設けられている。6月の強調日は1日を除く各土・日曜日と25日。これらの日には、東礼拝場前に帰参受付が設けられ、午前11時30分から、うちわけ会で揃つて東礼拝場でおつとめを勤める。

帰参報告は受付に帰参報告カードを提出するか、カード等に記載されているQRコードを利用しオンラインで行う。また強調日以外の日に帰参した場

合は、詰所でもカードの提出を受け付ける。

うちわけ会として、おやさとかた東棟西側でひのきしんがとめられ、こちらにも受付が設けられる。ひのきしんの受付時間は午前9時30分から午後2時30分までとなっている。



6月のこよみ

入社祭

1日 午前10時

祭典後、縦の伝道講習会

よふき会例会

2日 午前10時

月次祭

13日 午前10時

青年会例会

13日 午前10時

布教実修所

14日 午前10時

鼓笛練習日

15日 午前10時

むつみ会例会

16日 午前10時

こども食堂MOGU

17日 午後5時

婦人会例会

20日 午前10時

女子青年例会

22日 午前10時

本部月次祭

26日 午前9時

修養科志願者面接

26日 午後2時

(於 本愛詰所)

習字のOKEIKO

華水教室

5週目を除く毎週木曜日

現代に生かす

「用木の道」

文・安藤吉人



最近流行っている漫画に『チ。ー地球の運動について』（魚豊著）というものがあります。実は私は漫画やアニメなど、創作された話があり好きではないのですが、知人に強く勧められて手に取ってみました。物語は、15世紀のヨーロッパを舞台に、禁じられた「地動説」を命がけで研究する人間たちの生き様と信念を描いたものです。



フィクションではありますが、私はいたく感動しました。現代の感覚からすると天動説というのは非常に滑稽にも感じるものですが、当時はキリスト教の教えとも関係して、どちらの説を取るかは信仰上の問題でもありました。

その中で、天動説が誤りであることを示した人たちが描かれ、特に彼らの「信念」が人から人へ、あるいは代を重ねて伝わっていく様子に、私はついお道の信仰者を重ね合わせてしまいました。

愛町分教会初代会長の関根豊松先生が次のような主旨の話をされています。

「おかげさまという言葉をよく聞く。そのとおりである。陰が正しく通ってれば、困ることは何一つ起こってこない。陰でものを大事にしている人にはもの

お与えが十分ある」
また、中川よし先生は「人の中の人になりなされや。人の中の人になるにはなあ、人から恩を受けたら一生忘れるやないで。一生かかって返すのやで。人のためになることをしたと思ったら、すぐ忘れるのやで」とおっしゃっています。

初代会長様はもとより、それぞれの教会の元一日の歩みの延長線上にいる私たちは、初代の信仰を探索し、こうした先人の言葉を反芻しながら次代に伝え、歩んでいくことが大切だとあらためて感じました。

誰よりも「人をたすけたい」

一方で、先日X（旧ツイッター）で、「天理の信者詰所は一泊千円で泊まれる」という内容が「バズった」ことがありました。そこから、あるユーザーが本愛詰所に泊まりに来てくださって、その様子などを配信してくれ、それがまた話題になるなどしています。現代的な話題ですが、私はやはりこうした動きの中に「教祖がお働きくださっている」と感じます。教祖は人をたすけたいとおっしゃってくださっている。私たちようぼくは、その風に乗らせてもらうことが大切だと思うのです。

自分たちががんばろうと取り組むことも大切ですが、誰よりも人をたすけたいと思ってくださいているのは教祖です。そのことを、今年には特に意識してもらいたいと思います。

公式サイトとYouTubeをご活用ください

天理教 本愛

検索



- 大教会の行事日程を確認
- 本愛誌最新号とバックナンバーをダウンロード
- その他お知らせ



- 祭典の様子をライブで視聴
- 大教会長の連載動画
- 神殿講話の限定配信

教理随想

言わん言えんの理を探る



教祖百四十年
祭へ向けて、一
手一つにおちば
がえりを推進し
ようと、今月、
第一回目の「う
ちわけ会おちば
がえり」が実施
されます。

「うちわけ会」とは、高安大教会につながる十四カ所の大教会の集まりにつけられた名称で、高安―東本からの流れを汲む本愛もそこに含まれます。

*

明治十五年六月十八日、河内国教興寺村（現在の大阪府八尾市）の松村さく様のおたすけのため、松村家にお入り込みくだされた教

うちわけ会おちばがえり

先人の歩んだ道を手本に 多くの人と共におちばへ

祖は、「ここは詣り場所になる。打ち分け場所になるのやで」と仰せられました。打ち分け場所とは、人間が真にたすかるちばの理を、世界へ向けて打ち分けていく、すなわち発信していく場所のことで、現在の教会がそれに当たると考えられます。中でも教祖から直接「打ち分け場所」を明示されたのが松村家で、後に教会が設置されて高安大教会へと発展します。これが「うちわけ会」の名称の由来です。そして教祖のご期待に沿ってちばの理を世界へ打ち分け、多くの人にこの道の教えを発信していくことが私たちの使命であります。本愛大教会は、大正三年七月、高安大教会の部内教

会として誕生し、たすけ一条の第一歩を踏み出しました。そして高安初代・松村吉太郎先生と、東本初代・中川よし先生の薫陶を受けて飛躍的に教勢を伸展させ、分教会から大教会へと昇格していきましました。これは偏に親神様と教祖のご守護によるものですが、そのご守護をいただく元となったのは、安藤正吉・初代会長様の親一条の信仰信念であつたといえるでしょう。それを物語る逸話があります。

本愛が誕生して三年が過ぎた頃、当時、東本の上級教会であつた大阪の南分教会の会長が三十二歳の若さで出直され、役員や有力信徒の心が教会から離れてしまふという事情が起きまし

た。この事態を憂慮された松村先生は、南の修理丹精にかかられますが、そこで白羽の矢が立ったのが本愛の初代会長様でした。

松村先生は、当時本愛が設立から三年しかたっていないことを心配され、挨拶に出向いた初代様に、「自分の教会は大丈夫か」とお尋ねになります。その時初代様は、「本愛が潰れるのは覚悟の上です。潰れたらまた一から作り直します」とお答えになり、その覚悟なら、との全幅の信頼を受けて大阪へ出発されました。

初代様四十歳の時です。かくて約一年にわたる真実の丹精が実を結んで、役員や教信徒の心が再びつながり、新しい教会長を志として南分教会は復興しました。親一条の信念に、親神様のお働きが鮮やかに現れた証左でありましょう。

この時代、全教を牽引されていたのが松村吉太郎先生です。ご自身が、明治十九年に肋膜炎の身上を救けられたことをきっかけとして、ちば一条の信念を固められ、生涯「命懸真剣」の道をお通りになりました。特に教祖四十年祭では教勢倍加、五十年祭には人類更生という大号令を掛けて年祭活動を盛り上げられ、今日の道の礎を固められたのです。

その時から約百年。うちわけ会につながる私たちは、松村先生が教祖年祭に懸けられたご信念を我が心に刻んで、この旬にちば一条の信仰を確立しましょう。そして家族はもとより、一人でも多くの人におちばへ帰つてもらえるようにつとめる誠実が何よりの親孝行であり、一人一人が直面する身上や事情のご守護をいただく種となります。

年祭まであと七カ月。先人が歩んだ道を手本として、一手一つにおちばがえりを推進していきましょう。

婦人会

総会を華やかに開催

汗ばむほどの快晴となった5月20日、「天理教婦人会本愛支部第94回総会」が大教会にて開催された。

午前10時からおつとめ・十二下りてをどりが勤められ、続いて総会式典が執り行われた。式典後はバザーが催され、大きな賑わいを見せた。

4月のおさづけの理拝戴者

佐藤孔太郎（本清愛）

森本敏文（本晃道）

本知分教会二代会長

吉田秀雄之霊の二十年祭

本知分教会二代会長夫人

吉田榮之霊の十年祭

本知分教会では4月15日

午前10時半より、二代会

長・吉田秀雄之霊の二十年

祭並びに、二代会長夫人・

吉田榮之霊の十年祭が大教

会長を祭主として同分教会

で行われた。

おちばで学び、伏せ込み、信仰の喜びを実感しよう！

第1009期 修養科生大募集

《集合・面接》 ☆日時…6月26日 午後2時 ☆場所…本愛詰所

※6月20日までに神殿事務所へお申し込みください。

大教会日誌

令和7年4月25日～令和7年5月23日

4月

26日 本部月次祭

13日 月次祭

29日 全教一斉ひのきしんデー

祭主 大教会長 扨者 大橋進、松浦道太郎

30日 常任役員会議◇役員会議

指図方 都築隆道 賛者 安井篤、桑子彰

5月

◇祭典講話 桑子保

1日 入社祭

◇大教会長挨拶

祭主 大教会長 扨者 和光重男、山本正太郎

青年会例会

指図方 杉村善男 賛者 野田正樹、山本治行

14日 布教実修所

◇祭典講話 坂倉敏男

16日 むつみ会例会

◇大教会長挨拶

17日 こども食堂MOGU

2日 よふき会例会

20日 天理教婦人会本愛支部 第94回総会

12日 常任役員会議

女子青年例会